

ちば里山新聞

（第80号）
 編集発行 NPO 法人ちば里山センター
 袖ヶ浦市長浦拓2号 580-148
 ☎ 0438-62-8895
 題 字 倉島 貴浩
 （ワークホーム里山の仲間たち）

今年も千葉県産広葉樹の種を配布しました！

千葉県内には、ナラ枯れ被害や令和元年の台風被害からの再生を目指す里山が多くあります。この再生について、国連生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で合意された、30by30（2030年までに陸と海の30%以上を保全）に市民目線からの参加として、被害を受けた里山に生物多様性を高めるための苗木を育成、植栽する、「千葉県由来の苗木育成プロジェクト」をちば里山センターで令和4年に立ち上げ、翌年から種の配布を始めました。3回目となる今年の種子配布を4月10日に千葉市都市緑化植物園で、4月13日にはちば里山センターで実施しました。

今回、集めた37種類のうち29種類の種について18団体、26人から希望があり、配布しました（採取、保存していた樹種のうち、春から初夏に採取したオオシマザクラ、ヤマザクラ、ウメ、タブノキについては、行方不明になってしまいました。希望されたみなさん、大変申し訳ありませんでした。

希望があった団体ですが、北は利根川沿いの栄町、南は太平洋に近い南房総市まで幅広く、取り組んでくれる方たちも今年初めてチャレンジする方、今年は別の樹種にチャレンジする方など様々であり、このプロジェクトが千葉県内のあちらこちらの里山に広がっているようです。人気があったのはクロモジ（11人）、クヌギ（8人）で、予想外にコナラ（3人）、ケヤキ（1人）は人気がありませんでした。このほか、独自に種を集めて森に植えるために苗木を育て始めたという声も聞こえてきます。自分たちで育てた苗木を活動する森に植えて育てることで、活動する森に対する愛着や夢が広がるとともに、次世代に引き継ぐための一歩にもなるのではないのでしょうか。

また、今年もエコメッセで苗木の配布を予定しています。里山センターまで事前に届けていただく必要がありますが、ご協力いただくとありがたいです。ちなみに、エコメッセで苗木を持ち帰ってくれる方は庭に植えてみたいという方が多く、どちらかというと大木にならない樹種が好まれるようです。



配布するために、希望者ごとに種や培土を分けます



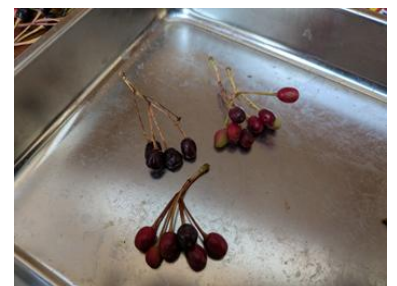
希望者ごとに種などを説明しながら配ります



播種したコンテナ容器
 （千葉興業銀行君津支店）

このほか、昨年度から千葉興業銀行がコンテナ容器を使って本店および支店の店内で千葉県由来の広葉樹苗木の育成に取り組んでいて、ちば里山センターで協力、支援しています。昨年度は本店と5支店でクヌギやコナラなどの苗を育てていただき、このため、このプロジェクトで集めた種の一部をコンテナ容器への播種も行いました。本年度はさらにあらたに7支店を追加して12支店で苗木の育成に取り組んでくれるとのことでした。

今年も、さっそくヤマザクラなどの種から取り始めました。この春に希望されてお渡しできなかった方には、来月にはお渡しすることも可能です。希望される方がいらっしゃれば、ちば里山センターまでご連絡ください。



熟したヤマザクラの種(果実)

令和8年度総会が開催されます。ぜひご参加を。

ちば里山センターの年次総会が開催されます。

日時：6月18日(木) 総会・午後1時30分～2:30分

懇親会・午後2時30分～

場所：第1会議室・ちば中央大ホール(加瀬ビル8階)

(千葉市中央区中央3-18-3)

すでにお手元にはメールで総会の通知が届いていると思います。近年、ちば里山センターは会員サービスのみならず、里山関係者を対象に多くの事業に取り組んでいます。その詳細を確認するとともに、他の会員と直接顔を合わせて気楽に意見交換を行い新たなネットワークを広げる貴重な機会でもあります。

ぜひ総会そして懇親会にご参加ください。

なお、欠席の方は忘れずに委任状の提出をお願いします。



昨年の総会・懇親会の様子

これからの森づくりのヒントを～FICの森で考える～

令和8年度第1回ちば里山イノベーションハブ活動促進事業「これからの森づくりのヒントを～FICの森で考える～」が、君津市鹿野山中腹の千葉県森林インストラクター会の森(通称FICの森)及び内山緑地建設(株)君津事業所を会場に実施されました。



メイン講師の福島氏

午前中は、メイン講師の福島成樹氏(千葉県緑化推進委員会)及び森林インストラクター講師から、現在の森づくりが抱える様々な課題への対応が語られました。特に、

福島講師は、ナラ枯れ等によるギャップ(樹冠に空いた空間)の発生を生物多様性を増す好機と捉え、ギャップが閉塞しないように維持管理して新たな樹種の導入と成長を促す方法や、さらに一歩進んで、切る、使う、育てるのサイクルを実感できる短



樹木解説

伐期、低木林の森づくりへの移行を呼び掛け、参加者から多くの質問が飛び交う濃厚な時間となりました。

午後からは、内山緑地建設さんが整備した「きみつのさんぽ道」で森林インストラクターによる樹木解説や庭園の見学を行い、さらにすぐに使えるクラフトづくりを学ぶ時間もありました。「ブンブンゼミ」と「どんぐり落とし」の2種類を、行き届いた事前準備のおかげもあり、短時間で作って遊ぶところまで体験できました。

参加者は県内各地から16団体、30名に及びました。それぞれ地域や日常の活動が異なるため、問題意識も質問内容も異なりましたが、貴重な学びの場、情報交換の機会として前向きに取り組み、多くのヒントを得て帰路につきました。



カツラの下で集合写真



クラフト体験

ニューフェイス紹介

～澤口晶子さん～

5月から里山林保全整備推進地域協議会の事務をさせていただいている澤口です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は若い頃、野生動物の保護活動、植林活動、環境教育など幅広く参加していましたが、東日本大震災ののち体調を崩し、仕事を退職してからはボランティア活動から遠のいておりました。このほど事務局からお誘いをいただき、協議会のお手伝いをするようになった次第です。

現在のボランティア活動としては、狩猟免許を生かして長南町でアライグマ等の駆除活動をしています。社会人となった40年前は、動物好きが高じた拳句、動物を殺す活動をするようになるとは思いませんでした。しかし、耕作放棄された谷津の水辺で細々と命をつなぐトウキョウサンショウウオやヤマアカガエルが食害されている様子を見ると、駆除もやらざるをえないと感じています。

昨冬は猟友会の方からイノシシや鴨を分けていただき、ジビエ料理に勤しんでいました。

里山とのかかわり方は様々ですが、今後も体が動くうちはフィールドに出たいと思っています。



「いすみ薪ネットワーク」をおとずれて

「いすみ薪ネットワーク」は、千葉県いすみ市を拠点に活動している薪ストーブ愛好家の集まりです。約200人の登録メンバーが参加しており、運営の中心となっているのは、24年前に東京から移住してきた伊藤幹雄さんです。「いすみ薪ネットワーク」のメンバーが薪ヤードと呼ばれる原木置き場に集まり、里山で伐採したマテバシイ等の原木を薪割り機を使って順次割っていく。重労働だが、メンバーは楽しそうに作業を続けています。一方では手斧を使って薪を割っている頑張り屋のメンバーもいます。

薪の原木となるのは、いすみ市周辺の住民からの依頼により伐採した里山の樹木だ。薪ストーブに向いているのは、火持ちの良いカシ、ナラ、ケヤキなどの広葉樹で、依頼があると、参加できるメンバーがチェーンソーやウインチなどを持参して現地に赴く。道具を持って



薪割り機を使って

いない人は、枝払いや原木運びをする。大型チェーンソーを使うような危険な作業は、経験者や安全教育を受けたメンバーが担当し、作業環境にも十分な配慮を行っているようです。

割った薪は軽トラ一杯単位で販売を行っており、生木で5,000円となっております。ここまでしてメンバーが団結して薪を集めるには理由があり、それは「薪の高価さ」だ。いすみ市周辺のホームセンターでは、薪8本ほどの一束が700円ほどで販売されている。

ただ、一束は約1時間半で燃え尽きてしまう。1日10時間使えば、月に12万6千円の出費になる。

ここで得られた薪は会員の家で薪ストーブで燃やすとまた格別な温かさとなるようです。



伊藤幹雄代表



手斧を使って

